

HPV（子宮頸がん）ワクチン副反応被害者の命と健康を守るため、 医療体制を整えることと実態調査をすることを求める請願書

請願要旨

私は HPV ワクチン（サーバリックス、ガーダシル）が全国で定期接種化され、各自治体でも積極的勧奨されていた 2011 年～2012 年、私が中学 1 年生の時にサーバリックスを 3 回接種し、健康被害を受けました。それから 8 年が経ち、21 才になった現在でも闘病生活を送っています。

症状は、頭痛、全身痛、眼痛、腹痛、関節痛、倦怠感、全身掻痒感、光・音・におい・化学物質等に対する過敏症状、歩行障害、筋力低下、脱力、硬直、振戦、姿勢保持困難、呼吸障害、意識障害、嚥下障害、平衡感覚異常、目眩、耳鳴り、高次脳機能障害（記憶障害、注意障害、失認、失行、遂行機能障害、行動障害、情動障害）、認知障害、視野狭窄、色覚異常、発熱、発作性頻脈、発汗異常、レイノー現象、月経異常、排尿障害、むずむず脚症候群等です。日によって時間によって強い症状は移動し、それぞれの症状の程度も一定ではありません。

痛みや倦怠感、過敏症状では酷いときは唸るほど、動けなくなり失神してしまうほどです。脱力や硬直でも急に倒れたり動けなくなってしまうことがしばしばあります。また、起き上がることもできない日もめずらしくありません。現在は、意識状態が悪いことも 1 日の大半を占めるようになりました。高次脳機能障害により、自分が今どこにいるのか、何をしていたのか、周りにいる人が誰なのか分からないことも多いです。小学生でも簡単にできる 1 桁の計算ができない、漢字も読めない、書けない、アナログ時計も読めない、文章や他人の話を理解するのも長い時間を要するようになりました。調子が比較的良く起き上がったとしても、平衡感覚の異常が常にあり、全身に力も入りづらいため、自力で長時間座位を保つことが困難です。外出時には車椅子が必須です。調子が悪ければ呼吸状態が悪くなることが多く、時に呼吸抑制も起きるため、いつ死んでしまうのか分からない恐怖を抱え生活しています。毎日が辛く苦しくて、本当に本当に不安で堪りません。毎日毎日、少しでも良いから楽になりたいと願わない日はありません。早く少しでもこの苦しみから解放されたい、できるなら死んでしまいたいと思うほどです。

このような HPV ワクチンの副反応については、未だ国や製薬会社が否定しているため、治療法の確立どころか、全国にもこの病気に対し協力的な医療機関

はごく僅かであり、いわき市には存在しないため、私は県外の病院に定期受診させて頂いています。

緊急時に迅速な対応をしてくださる病院もいわき市にはないのです。すごく苦しくて死にそうなとき、やっとのことで車に移乗し、病院に連れて行ってもらっても、受診自体を拒否され、医師が顔すら見てくれないこともありました。受診できたとしても仮病や詐病扱いをされたり、とても動ける状態でもないのにリハビリを勧めるだけで帰宅をうながされたりしました。このような対応で、更に体調が悪化してしまうのです。

そこで以下についてお願いします。

請願事項

- 1 早急に市内で HPV ワクチン副反応患者に対する医療機関受け入れ体制を整えること。
- 2 いわき市には私以外にも HPV 副反応被害者がいる可能性があるため、HPV ワクチンを接種したいわき市民全員に接種後の健康状態調査を行うこと。